

越後片貝まつり 浅原神社秋季例大祭（九月九日・十日）

奉納大煙火ご寄付の御願

拜啓 盛夏のみぎり、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

現在、九月九日、十日の両日行われる片貝まつり、浅原神社秋季例大祭奉納大煙火の準備を進めております。例年のことながら奉納煙火打揚げについては絶大なるご支援とご援助を賜り熱く御礼申し上げます。（三尺玉発祥の地）奉納三尺玉は明治二十四年九月九日夜の部三発十日昼の部一発計四発が打揚げられ、この煙火目録に次のように記されております。

「我郷ノ煙火を以て名アル茲二年アリ 近來西洋技術ノ輸入アリ 稍々五寸 七寸玉等ノ火色ニ至テハ多少其進歩ヲ見ルモ 大煙火ヲ打揚グルノ技術ニ至テハ月世界ハイザ知ラズ 我郷ヲ除クノ外 全世界ニ於テ其技術ヲ較ブルモノハ 恐ラクハ之アラザル可シ 是我郷特色ノ技術ナリ 看ヨ一看ヨ一看ヨ一三尺玉ノ光景ヲ 時至リ手ヲ下ニセバ間髪ヲ入レズ 巨砲ノ鳴ルニ勝リ 萬雷ノ一時ニ轟クヨリモ盛ニ轟然爆然忽チ四千尺ノ空中ニ於テ偉麗ニ壯大ニ 美妙ナル蜃気楼ヲ 観客諸君ノ眼中ニ映ゼシム可シ之我郷特色ノ技術ナリ」

……中央煙火会の文献にも三尺玉発祥の地と、一面花火発祥の地とも記され煙火片貝の名声は全国煙火会に知れ渡っております。

この輝かしい先人の気づいた伝統を引き継ぎ年々栄えてきたのであります。特に玉送り、筒引きの行事は全国に例のないもので、戦国時代の質実剛健の気風を現在に至るまで持ち続け、文化財的存在として高く評価されております。又、平成十六年から四十五年ぶりに復活した昔ながらの二階建祭屋台が復元され一階でシャギリ二階では踊りと巫女爺を披露しながら前日祭として町内を曳きまわす伝統行事が復活いたしました。

明治二十四年（一八九一）に三尺玉を打揚げて（日本最初）より百余年、年を追うごとに活況を呈し、昭和六十年（一九八五）に世界一四尺玉打揚げに成功と、ともに予想以上に盛大な祭りとなっております。奉納煙火においては、花火技術の向上と内容の充実した打揚げにより奉納者から感動していただけるよう努力しております。これらは偏に皆様方のお陰様と深く感謝致しております。

昨年、一昨年と二年続けて奉納大煙火が中止となりましたが、本年は三年振りの開催となります。

”花火のふる里“の名にふさわしく世界一の四尺玉二発の奉納打揚げ及び、正三尺玉、真昼の三尺玉一発の奉納打揚げが決定しており、越後片貝花火の魅力を十分に観覧いただけるものと確信致しております。

本年も各局のテレビ放映はもとより新聞雑誌の取材陣等の来町が予想され、町内は勿論各組若、小若、成人、三十三才、四十二才、五十才、還暦などの各級友会とも準備に取り組んでおります。

準備が進むとともにシャギリ稽古の音も響き日一日とお祭り気分が盛り上がり、盛大な祭りが予想されます。令和四年度の記念として煙火奉納者には世紀に残る立派な花火番附を作成したいと考えておりますので皆様方多数の御芳名が番附に記載されるべく、お子様の誕生、結婚、御慶事、追善供養等の記念に又、尊家の御健康、交通安全祈願等奉納煙火の御寄進を賜りますよう、特段のご配慮を御願ひ申し上げます。 敬 具

片貝町煙火協会

会長 安達 勇

●千九四七〇二〇一 新潟県小千谷市片貝町六五三二一五

片貝ふるさと会館内（浅原神社脇）

TEL【〇二五八】八四一三九〇〇

FAX【〇二五八】八四一三九〇二

各位